



令和5年5月

こども発達支援センターぱれっとクラブあしかが
0284-22-7277(月~金 8:30~17:00)

《ぱれっとクラブってなあに?》

発達に心配のある乳幼児のお子さんたちに通っていただいています。ご家族様からのご希望を伺い、療育の目標を立てていきます。そして、好きなことや得意なことを活かしながら、一人ひとりのお子さんに合った指導を行います。現在は週1回程度の個別療育や、月に2回程度の年長児グループ指導(母子分離)、年中児グループ指導(母子同室)を行っています。

また、発音が不明瞭で聞き取りにくいお子さんや、ことばが詰まってなかなか出てこないお子さんの相談や指導も行っていきます。

発達やことばについてのご相談がありましたら、お気軽にご連絡ください。



ひとりひとりを大切に

「世界に一つだけの花」という歌の歌詞にもあるように、みんなひとつひとつ違う種・尊い生命を持って生きています。小さな種から、世界にひとつだけの美しい花を咲かせるためには、大量生産では不可能ですし、ほうっておいてもいけません。それぞれの種に合った、土の状態、肥料、採光、水やりを考えなくてはなりません。そのためには、それぞれの種の状態、性質をよく知らなければ育てることはできません。

同じ子どもはひとりとしていません。みんな違う個性を持ち、それぞれの感じ方があり、それぞれ違う可能性を持っています。それぞれみな違う環境のもと、必死に生きています。でも共通することは、どの子どもも「尊い生命」であるということと、「個別的な配慮を必要としている」ということです。

引用図書:わかってほしい!気になる子 田中康雄 監修



<やってみよう♪こころとことばが育つからだ遊び!>

ことばを理解したり話したりするのは、脳の一番上にある「**大脳**」の働きによっておこなわれています。「**大脳**」のことばの場所に情報が正しく出入りするためには、通り道にあたる「**からだの脳**」「**こころの脳**」の部分の電気の通りを良くしておく必要があります。からだを動かして遊ぶことで、全身の「**感覚**」から入ってくる刺激が脳に伝わり、子どもは新しい姿勢や動きを覚えたり、物やことばの認知を広げていきます。そしてその刺激こそが、大脳につながる電線に流れる「**電気**」なのです。

ことばを育てるのは、生活の中に溢れていることばの数々です。そして、そのことばが子どもにしみこんでいくためには、からだを使って遊び、脳の土台を育てること、人とのつながりを「**楽しい**」と思えるところを育てることが重要です。このように、からだとことばは深い関係で結ばれているのです。

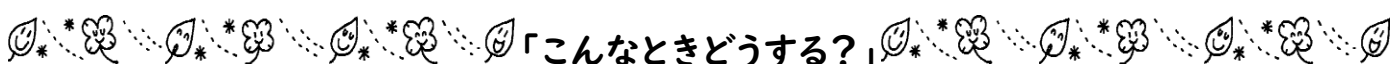
★ことばが育つ「からだ遊び」の5つの要素★

5つの要素	からだ遊び
①「揺れ」を楽しむ遊び	抱っこでゆらゆら、ハンモック、ブランコ、おうまパカパカ
②「上下動」のある遊び	たかいたかい、おんぶでよーいドン、手をつないでピョン（段差からジャンプしたり飛び乗ったり）、トランポリン、お風呂でザバーン
③「回転」遊び	抱えてぐるぐる、手つなぎ逆上がり、回転いす回し
④「加速度」を楽しむ遊び	押し車でドライブ、すべり台
⑤「触れ合い」遊び	布団でごろごろ、ピコピコハンマー、シール貼り、くすぐり遊び、おすもう

※子どもの年齢に合わせて楽しく遊ぶことが大切です!



参考図書:場面別に楽しむ「語りかけ」 監修 言語聴覚士 中川信子



Q.急な予定の変更に対応ができない。→不安材料を取り除き安心させてあげることが大切です!

急な変更が受け入れられないのは、見通しを失うことで不安になってしまうからであることが多いです。変更後の状況や、何をすれば良いかを具体的に知らせることで不安感が軽減し、安心感を得られ、状況を受け入れやすくなります。また、子どもが大きな不安を抱え、苦しい気持ちであることを理解し、その気持ちに寄り添うことも大切です。

例:母「今日は雨だから公園に行けなくなってしまったよ。」

子「え～何をしたらいいの?」



母「今日は雨だから公園に行けなくなってしまったよ。遊びたかったね。でも家で絵を描いて遊ぼうね。」

子「絵を描いて遊んでいいんだ!」

気持ちに共感し、変更後の予定を伝えてあげよう!

参考図書:発達障害の子どもたちをサポートする本 榊原洋一 著

